

東京交通新聞 2010 年 4 月 26 日

<一般タク乗務員にバリアフリー研修>

全タク連・全福協 最低限のスキル修得

全国の法人・個人タクシードライバーの全員参加を目標とする「タクシー乗務員バリアフリー研修」が来年度にもスタートする。すべてのタクシー乗務員が1日で気軽に受けられる研修を目指し、全国ハイヤー・タクシー連合会（富田昌孝会長）と全国福祉輸送サービス協会（漢二美会長）は来月、新カリキュラム開発委員会を発足、年内メドに策定する。高齢社会でタクシーの役割を発揮するため、専門性の高い福祉ドライバーだけでなく、一般のタクシー乗務員に最低限のケア輸送技術を身につけてもらうのが狙い。

来月に教程委発足

タクシーが地域の公共交通機関として活躍するには福祉輸送への対応が不可欠となっている。その際、「ハード面の福祉車両を増やすことも大事だが、従事するドライバーのスキル充実などソフト面の対応がもっと重要」（国土交通省総合政策局）との見方が強い。今後、一般タクシーを福祉車両化し健常者も障害者も乗れるユニバーサルタクシーが導入された場合、一般タク乗務員にとって最低限の福祉スキルの修得が必至とみられている。

全タク連と全福協はタク乗務員のケア輸送技術の向上のため、2001年度からケア輸送サービス従事者研修を実施、2800人超が受講した。だが、このところ受講者が減少。研修を「一般タクシー乗務員が時間的にも費用的にも受講しやすい内容とする」（全福協幹部）方向で見直す。

具体的には新カリキュラム開発委員会を設置、既存の研修テキストを基に新ガイドブックを作成する。これにより、各地のタク乗務員が受講できるようにする。内容は乗務員が高齢者、障害者、患者などの輸送に必要な最低限の輸送技術。研修期間は1日。費用は低廉とする。受講対象は全国法人・個人タク41万1000人（うち個人4万6000人）。当面、年間2万人の受講確保が目標。

現在のケア輸送サービス従事者研修は、集合研修3日間（2種免許保持者は2日間）など高度な専門的な研修、今回のタク乗務員バリアフリー研修は「福祉をよく知らない乗務員が気軽に受講できる入門的な研修」と位置付けている。

関連研修として、子育て支援タク、福祉限定タク、福祉有償運送運転協力者などへの対応も検討する。